



# とらいあんぐる



2024 年 4 月

一音会ミュージックスクール発行

「まっすぐな時代」

とうとう都立高校は、令和 6 年度入試から、男女別定員を撤廃しました。

そもそも、都立高校がこれまでずっと男女別定員であったことをご存じない方もいるかもしれません。

説明しましょう。

「男子 200 人、女子 80 人」などというように、最初から男子と女子で定員が大きく違うのです。

明治時代とかの話ではないのですよ？

令和の時代までそうだったのです。

なんのために？

さあ、知りません。

いろいろなゆがみが解消され、今ようやく、まっすぐになった気持ちがあります。

まっすぐじゃない時代は、まっすぐじゃないことに気がつきません。

よく考えると、おそろしいことです。

今も、実はまっすぐじゃないことがきっとあります。

でも、気がつかないのです。

ずっと、まっすぐじゃなかったから

まっすぐじゃないことが普通に感じられているのです。

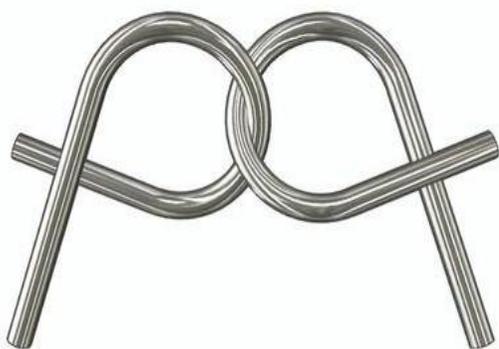
まっすぐになってはじめて、今までまっすぐじゃなかったことが、とても変なことに思えてきます。おもしろいものです。

数年たつと、まっすぐじゃなかった頃のことは忘れられてしまうでしょう。

それで良いのです。

いいえ、それが良いのです。

でも、これから生きる人が、まっすぐな世の中のありがたみを理解できるように、ゆがんでいた時代のことを、私が教えておいてあげましょう。



私が卒業した高校は、都立高校です。

その学校は、もともと男子校だった学校です。

定員が男女で大きく違っていました。

私のクラスは50人くらいのクラスでしたが、そのうち女子は13人しかいませんでした。

そのくらい、アンバランスなのです。

女子トイレが極端に少ないのは、とても不便でした。トイレに行くだけのために、階段をのぼったりおりたりしていました。

今は建物もきれいに建てかえられ、なんだか進歩的な学校のような雰囲気を出しているようですが、そんな学校ではありませんでした。

すごく古い言葉で「バンカラ」という言葉があります。

「バンカラ」とは、男らしく、あらあらしく、よくいえばかざらない、という意味です。「バンカラ」の「バン」は、野蛮の「バン」です。

私の母校の特徴を一言でいうなら「バンカラ」をよしとする学校でした。

校則がありません。校則がないので生徒手帳也没有ありません。

服装も髪型も自由です。

私は髪の毛がかたくて、ねぐせがなおらないので高1の時からパーマをかけて、ねぐせをあいまいにしていました。くるくる頭について、注意を受けたことはありません。

上履き也没有ありません。朝練が終わった運動部が、泥だらけのユニフォームと靴のまま教室に上がってきます。

教室はいつも、汗と泥のにおいでいっぱいでした。

床は当然、泥だらけです。白い上着を床に落としたら、この世の終わりのような気分になったものです。

どれもこれも、全然、誇ることはありませんが、「バンカラ」が良いかのような時代だったのです。

お世話になった母校の悪口ばかりい

うのは気がひけるので、ちょっとだけ弁護しておきます。

建物の構造といったハード面では女子に不便が多かったのですが、女性差別を感じたことはありませんでした。

ソフト面では、完全に男女平等でした。

今はあたりまえのことですが、そうではなかった時代において、私の母校はその点では少しだけ進歩的だったのかもしれない。

逆に女子が優遇されていたと感じることもありました。



出席番号は女子が先でした。健康診断の日程など、男女別のものはかならず女子が先です。

担任の先生は英語の先生でしたが、英語なまりの日本語を話す上品な紳士で、“レディファースト”を徹底していました。

委員などの重要なポジションも、なるべく女子を任命するというナゾのエネルギーが働いていました。

それは、実は男女別定員と関係していたように思っています。

女子の定員が圧倒的に少ないと、どういふことがおこると思いますか？

入学試験の合格者の最低点が男女でかなり違うのです。

そしてそれは入学後も厳然たる事実として続くのです。

定期テストの平均点は、どの科目も男女で10点くらい違うのがあたりまえでした。もちろん女子の方が勉強ができるのです。

有名私立大学の推薦枠は、ほとんど女子がとると決まっていました。

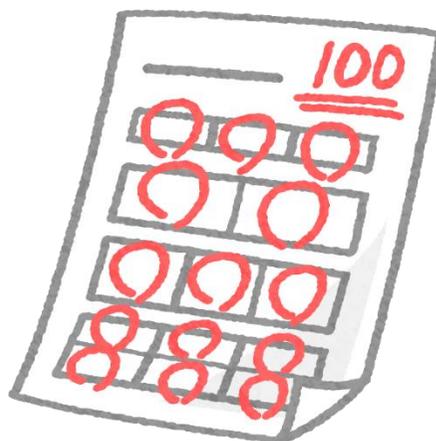
学年トップも女子でした（私ではありません）。

私のクラスに現役で東大に合格した人は3人いましたが、そのうちわけは女子2人、男子1人でした。

女子が圧倒的に少ないにもかかわらず、成績上位は女子でかためられていました。

女子が進学実績を支えているからかもしれませんが、マイノリティであるはずの女子は、大切に扱われていました。

それだけは強調しておきます。



理系の科目が重んじられている学校でもありました。

私立でもないのに、妙に立派な理科室があり、顕微鏡は1人1台、与えられていました。中学までは、班で1つの顕微鏡を使うのがあたりまえでしたから1人1台に驚きました。

しかも、その顕微鏡はズシリと重く中学までの顕微鏡とは性能がまるで違うことが、手にとっただけでよく分かりました。

実際、理系に進学する生徒の多い高校でした。



反対に、軽く扱われていた科目の筆頭は、家庭科です。

当時、男子は家庭科をとらなくて良い時代でした。

これがまずおかしいのです。でも、それは私の母校のせいではなく、どこの学校でもそうだったのです。今となつては信じられないと思いますが、そういう時代だったのです。

もともと男子校だった学校に、ちゃんとした家庭科室があるわけでもありません。

明らかに他の用途で使われていた部屋に、後から机を置いただけ、という部屋が家庭科室になっていました。

資料室かなにかだったのだと思います。棚には、家庭科とは何の関係もない段ボール箱がおさめられていました。

調理する設備もなければ、ミシンもありません。

基本、座学です。机と椅子しかないからです。

ほとんどの時間、教科書をながめて時間をつぶしているような授業でした。

あとは、てきとうにお裁縫をしていました。

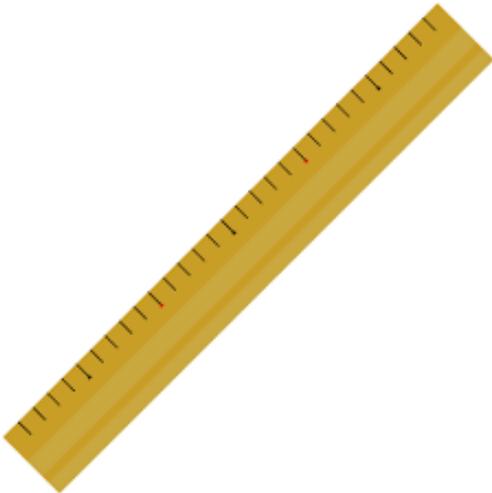
このお裁縫もひどい作業でした。

ミシンがないので、針と糸を使って手で縫うのです。

皆、家からてきとうな布地を持ってきて、ギャザースカートかなんかを縫って、時間をつぶしていました。切って縫ってゴムを通せば終わりです。

ものさしも布を切るハサミも、5人に1本しかありませんでした。

一生懸命作業していたら、おそらくものすごく不便です。でも、みんなおしゃべりの方が忙しいので、さほど困っていませんでした。



手は、ほぼ止まっていました。

わーわーとさわがしい雑談タイムの中、家庭科の先生が、突然、何かにたえられなくなったように大きな声を出したことがあります。

「この学校は、1人1台、やけに立派な顕微鏡があるのよ！！！」

皆、うん、知ってるよという顔です。

「なのに・・・竹のものさしが・・・竹のものさしが・・・5人に1本しかないのよ！！！」

絶叫します。

「どういうこと？！！！」

知らんがな、です。

皆、その時は、先生の突然の大声に、一瞬、おしゃべりをとめ、先生の顔を見ました。

家庭科の先生の大声に驚きつつ、誰も先生の話の内容には興味を示しませんでした。

だって受験の話と恋バナしか興味がないのです。

家庭科に罪はないけれど、受験に関係ない科目だから、そりゃまあねえ・・・  
そうなるよねえ・・・。

受験に関係ない科目は、軽んじられがちです。私たちも、家庭科の時間は完全に休み時間だと思っていました。

何人かは「自分たちがおしゃべりばかりしているから、先生が怒っちゃった」と思い、あわててお裁縫の作業に戻っていました。

家庭科の先生は憑き物がおちたように、ストンと椅子に座り、無言になりました。

「今のはなんだったんだ？」

残りの生徒はしばし顔を見合わせていましたが、やがて皆、のろのろと作業に戻るのです。

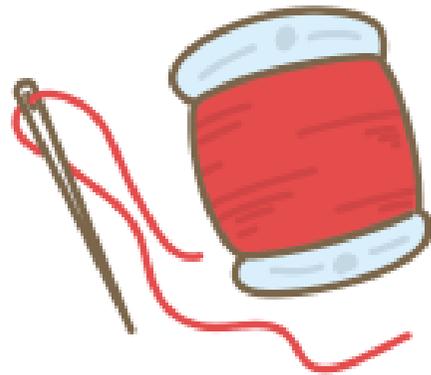
その時、手元の縫いかけのギャザースカートに目をおとし、私は強烈な違和感をおぼえていました。

ひざにおいたギャザースカート。これをはくことはないだろうな・・・と思

いました。その時、私はジーパンをはいていました。

洋服を縫う時代じゃなくなっています。それ以前に、手で縫う時代でもありません。

やっていることが、時代と大きくズレていることに気づきました。



のちに、この家庭科の先生が進歩的な考え方の持ち主であることを知ることになります。

あの時、家庭科の先生がなげいたのは、竹のものさしが足りない件ではなかったと、今ならはっきり分かります。

家庭科が女子だけの必修であることも、それでいて家庭科を学ぶ環境資材

が乏しいことも、何もかもがうんざり  
だったのだと思います。

先生は、世の中全体をなげいていた  
のでしょ。う。

高校生だった頃、家庭科を軽んじて  
いた私も、今なら、家庭科の重要性が分  
かります。

長い一生の中で、食材を買って調理  
をし、生活を整える技術は、人の健康を  
左右します。ひいては人生そのものに  
影響します。

家庭科で学ぶ栄養や衛生の知識は、  
寿命に直接的にかかわるものです。

ありあわせのもので、ちょっとした  
調理ができる人は、自分の身体を健康  
に保つことができます。

家庭科が必修ではなかった時代に育  
った男性の中には、ごはんのたき方を  
知らなかったり、自分の家のキッチン  
なのに魚をどこでどうやって焼くのか  
知らなかったりする、幼児のようなお  
となが実在します。

若い方には、想像できないことでし  
よう。

時代は、加速度的にまっすぐになっ  
ていきます。

今の若い世代は、私たち世代や、その  
上の世代ができなかったことができ、  
まっすぐであることが最初からあたり  
まえになるのでしょう。

きっと、お米がたけない中年男性な  
んかにはならないでしょう。

未来は明るいのです。

新年度、新しい環境に飛び込んでい  
る方も多と思います。

まっすぐな未来に、心からエールを  
おくります。

(江口 彩子)



## ◆新年度のレッスンはスタートしました

新年度がスタートしました。

この春は桜の開花が遅く、桜満開の中のレッスンはスタートとなりました。良い1年になることを予感させます。

今年度も、たくさんのすてきな曲に出会いましょう。皆さまにとって、楽しく明るい1年となりますことをお祈りしています。

皆さまに新年度希望表をご提出いただき、作成いたしました新時間割が、動き出しています。新時間割作成の際には、お時間やコースについて、たびたびご相談、ご連絡をさせていただきました。お忙しい中、丁寧にご対応くださいました皆さまのご協力に深く感謝しています。

新年度がスタートして、生活のタイムスケジュールが思っていた形と違ってしまった方もいらっしゃるかもしれません。皆さまにとって、よりご都合の良いスケジュールになりますよう、引き続き、ご相談にのらせていただきます。何かご不都合がありましたら、ご遠慮なくご相談ください。

ただし、年度がわりの変更と同様、曜日や時間帯を変更される場合、原則として担当も変わってまいります。その点はどうかご了承ください。

レッスン曜日・時間等の変更は、本部にお電話ください【本部：03-5966-7711（担当・伊藤、矢島）】。

今年度も、どうかよろしくお願いたします。



## ◆今年度のイベント

この「とらいあぐる」と同時に、年間スケジュールをお配りしています。

なお、教室のホームページには、在会生徒さん用のページがあり、随時、生徒さんあての情報を載せています。以下のQRコードをご利用ください。



年間スケジュールは、そこにアップしていますので、出先で「来週は何週目?」、「次の土曜日は奇数週?偶数週?」、「ゴールデンウィーク周辺は、どこがレッスンのお休み?」等と思われた場合に、ご活用いただけたと思います。

最大の行事である「ピアノ発表会」は、今年も夏におこないます。昨年、試みに日程を拡張し、7月の日程を後から追加しました。8月にご予定があり、7月の方が都合が良いという方が一定数いらっしゃる事が分かりました。

そこで、今年も昨年と同様、7月日程と8月日程を設けました。開催場所も異なります。昨年の7月日程は、リトミック発表のできないホールでしたが、今年の7月日程は、リトミック発表をおこなうことができます。「ひよこ」演目にご参加の生徒さんや、ごきょうだいの方も、7月日程をお選びいただけます。

**7月日程：7月27日（土） 清瀬けやきホール**

**8月日程：8月2日（金）～5日（月） 成増アクトホール**

「ピアノ発表会」は、原則、全員参加です。合計5日間、開催しますので、ご都合の良い日を決め、ご予定をあけておいてください。

人前で演奏する経験は、ピアノのお勉強には不可欠です。ご協力をよろしくお願いいたします。

この春、ピアノをおはじめになった生徒さんも、十分、間に合います。毎年、4月に入会した生徒さんも、夏の発表会で活躍してくださっています。

ピアノをおはじめになっていない小さな生徒さんも、リトミック発表でご出演いただけます。そろそろ練習がはじまることと思います。

「ピアノ発表会」のくわしいご案内は、追ってお配りいたします。ご不明の点は、本部までお気軽にご質問ください【本部：03-5966-7711（担当・谷口）】。

## ◆「第18回ジュニア・コンサート」を開催します

「ジュニコン・オーディション」の結果、選抜された生徒さんによる「ジュニア・コンサート」を、4月26日（金）夕方、「ゆめりあホール」で開催いたします。

出演する生徒さんと曲名は、教室内ポスターでお知らせしています。

GWに入る直前の金曜日です。皆さまにとって、足をお運びになりやすい日であると思います。お一人でも多くの方にお越しいただきたいと願っています。

「ゆめりあホール」は、大泉学園駅より徒歩1～2分の、とてもアクセスの良いホールです。

チケットは、「ショパンはうす受付」で販売しています。入場料は、小学生以上の前売りが1000円（当日1500円）、未就学児の前売りが500円（当日800円）です。

## ◆「音楽会」を開きます

昨年に引き続き、今年も一音会スタッフの三浦奈美子先生（声楽）と吉田梨乃先生（ピアノ）が、「ひびきホール」で、音楽会「なみのおとコンサート」を開催します。

小さな生徒さんにも安心して音楽会に足を運んでほしい、という趣旨のもと、0歳のお子さまもお入りいただけますし、お子さまにも親しみのある曲を取り入れています。未就学のお子様は無料です。ぜひ多くの方に足を運んでいただきたいと願っています。追って、教室内ポスターで、詳細をお知らせいたします。

日にち：6月30日（日）

時間：午前の部 開場 10:30 開演 11:00（終演 12:30）

午後の部 開場 13:30 開演 14:00（終演 15:30）

場所：「ひびきホール」（「東長崎」駅南口より徒歩5分）

入場料：おとな 1500円 小中高生 500円 未就学児 無料

#### ◆レッスンご欠席のご連絡はメールでも大丈夫です

すでにご存じの方も多いと思いますが、レッスンご欠席の際のご連絡は専用のメールアドレスがございます。電話がつながりにくい時間帯等、メールでの連絡の方が便利な時も多いかと思えます。ぜひご活用ください。

[oyasumi\\_ichionkai@yahoo.co.jp](mailto:oyasumi_ichionkai@yahoo.co.jp)

\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[ichionkai.piano@gmail.com](mailto:ichionkai.piano@gmail.com)

電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。